

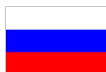
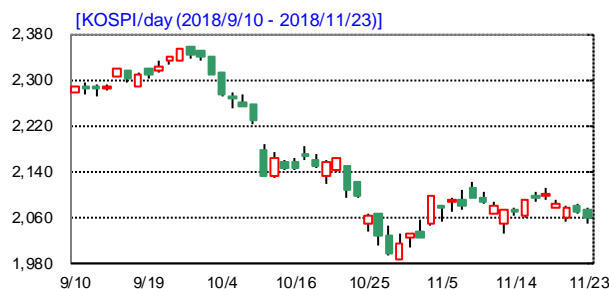


【韓国】 総合指数は週間で 1.7%安と反落、今週は様子見気分強まるか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.7%安と反落。週明け 19 日は 3 日続伸で 10 月 23 日以来の高値で引け、節目の 2100 ポイントを回復したが、その後は 23 日まで 4 日続落。米株相場下落を受けて投資家心理が悪化し、主力のハイテク株が売られて相場の重荷となった。自動車関連株の下げも目立った。現代自動車と起亜自動車がリコールを適切に実施したかどうかを米連邦地検が調査していると伝わり、嫌気した売りが広がった。今週は様子見ムードが強まるか。心理的節目の 2000 ポイント付近で売買が拮抗する展開がありそうだ。月末の G20 首脳会合に合わせてトランプ米大統領と中国の習近平主席が会談する予定。結果を見極めたい投資家が積極的な売買を控えそうだ。米中貿易摩擦の解消に向けた成果が得られるかが注目される。

▼指数チャート

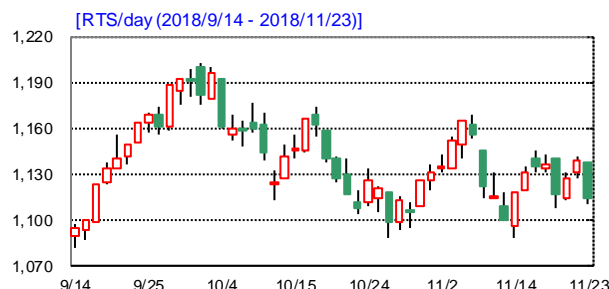


【ロシア】 RTS 指数は 1.9%安と反落、今週は米中首脳会談を前に神経質な展開

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.9%安と反落。米中貿易摩擦への警戒感が高まったほか、原油相場の大幅下落、通貨ルーブルの下落が投資家心理の悪化につながった。19 日は原油相場が底堅い値動きとなったことで RTS 指数は小幅高でスタートしたが、20 日は原油価格の下落で資源株が大幅安。米中関係の改善期待後退なども投資家心理を悪化させ、指数は前日比で 1.7%安となった。その後は原油価格の持ち直しやロシア中央銀行の利下げ観測などが好感され、21-22 日と続伸した。ただ、23 日は翌週の米中首脳会談を前に米中貿易を巡る懸念からリスク回避が強まったほか、対ドルでのルーブル下落も嫌気され、指数は 2.2%安。週間ベースでもマイナス圏で終えた。今週は米中首脳会談や原油相場の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



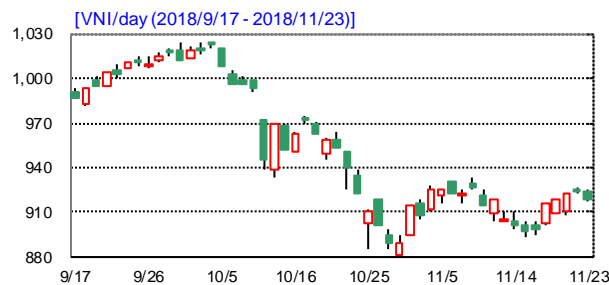
【ベトナム】 ベトナム指数は 2.2%高と 3 週ぶり反発、今週は米中首脳会談に注目

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.2%高と 3 週ぶりに反発。米国株が大幅安となるのを横目に VN 指数は不動産株や金融株が買われ、堅調な推移となった。週明け 19 日はフィリピン市場が大幅に上昇する中、不動産株や金融株の上昇で指数は 2.0%高と大幅高でスタート。米国ではアップルなどのハイテク株が大幅安となったものの、ベトナム市場は強いモメンタムを維持し、22 日まで 5 営業日続伸した。23 日は注目の米中首脳会談を翌週に控え、利益確定売りに押されて反落している。指数採用銘柄では不動産のビンググループが週間で 9.9%高、ビンホームズが 6.9%高となったほか、金融のベトナム繁栄商業銀行が 8.1%高となり、原油相場が下落する中でベトナム石油総公社も 3.2%高と買われた。今週は米中首脳会談の行方に注目が集まるか。

▼指数チャート



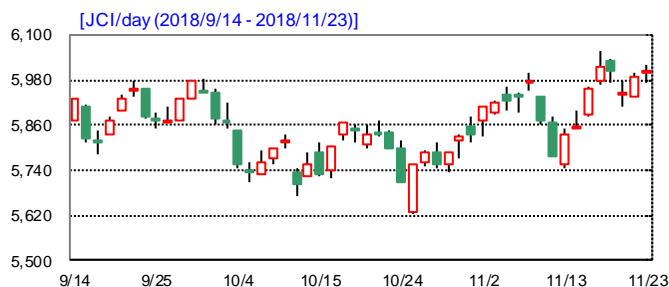


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、週末に 6000 ポイントを堅持

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 0.1%安と小幅反落。買い材料に乏しい中、週後半に上昇したものの補えなかった。週初の 19 日はテレコムカシ・インドネシアが下げを主導し、指数は小幅ながら 5 営業日ぶりに反落。祝日を挟んだ 21 日は前日の NY ダウが大幅に下落した影響で前営業日比 1.0%安と続落したが、22 日に反発すると、23 日には終値ベースで 3 日ぶりに 6000 ポイントを回復して引けた。今週も国内の経済指標の発表が少なく、週末からアルゼンチンで開催される G20 に合わせて予定されているトランプ米大統領と中国の習近平国家主席の会談を控えた両国の動向に注目が集まりそうだ。

▼指数チャート

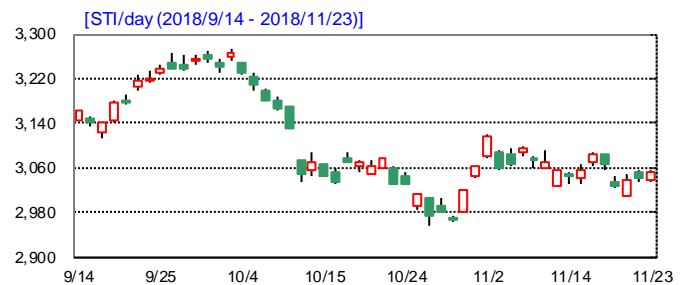


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 1.0%安、今週は 10 月の鉱工業生産に注目

スレーツタイムズ指数は週間で 1.0%安と反落。週前半の下落が痛手だった。週初の 19 日に 3 営業日ぶりに反落すると、20 日は前日の NY ダウが反落した影響で金融株が売られ、指数は終値で前日比 1.2%安と続落。ただ、21 日に反動で買い戻されると、22 日は 7-9 月の GDP 改定値が前年同期比 2.2%増と速報値の 2.6%増から下振れたものの、コングロマリットのジャーディン・マセソンなどが買われ、指数は続伸した。23 日はシンガポール航空が指数上昇をけん引し、3 日続伸して引けた。今週は 26 日発表の 10 月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。外部要因では中国の 11 月の公式製造業 PMI が注目される。

▼指数チャート

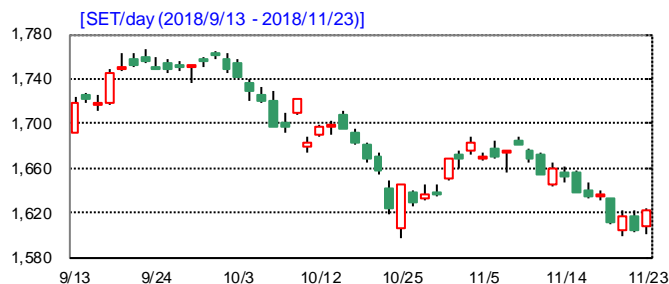


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、10 月の輸出が 9%増と好調

SET 指数は週間で 0.8%安と 3 週続落。一進一退を繰り返した 1 週間だった。週初の 19 日は 7-9 月期の GDP 成長率が前年同期比 3.3%と市場予想から下振れしたものの影響は軽微で、指数は小幅ながら 4 営業日ぶりに反発。ただ、20 日は前日の NY ダウが下落した流れを引き継ぎ金融株が売られ、前日比 1.5%安と反落した。一方、21 日は 10 月の輸出額（通関ベース）が前年同月比 8.7%増と好調だったことを受けて反発。22 日はタイ空港公社が売られて反落したが、23 日は同社株に加え、タイ石油公社（PTT）も買われ、指数は前日比 1.1%上昇して引けた。今週は 27 日に 10 月の鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

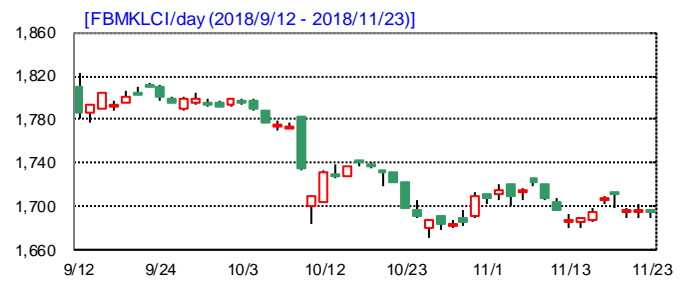


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、パーム油先物上昇でプランテーション株に買い

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.6%安と 3 週続落。週後半はほぼ横ばいで推移した。週初の 19 日は、パーム油先物価格が上昇したことを受けてプランテーション株が買われたほか、為替相場で一時的に米ドル安・リング高に傾いたことも好感され、指数は 4 営業日続伸してスタート。ただ、祝日を挟んだ 21 日に通信大手アジアタ・グループとマレーシア・エアポートが指数を押し下げ反落すると、その後は薄商いの中、週末までほぼ変わらずの値動きが続いた。23 日に発表された 10 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.6%と低い伸びが続いている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。